

総務文教委員会記録

令和5年8月2日（水）
09時59分～12時30分
全員協議会室

【委員】 永見委員長、三浦副委員長、
肥後委員、大谷委員、芦谷委員、佐々木委員、西田委員

【議長・委員外議員】 笹田議長、村武議員、牛尾議員

【執行部】

（総務部） 坂田総務部長、猪狩総務課長、森脇防災安全課長、
琴野防災安全課危機管理監、湯浅行財政改革推進課長、
小林財政課長

（地域政策部） 田中地域政策部長、川合定住関係人口推進課長、
末岡地域活動支援課長、永田まちづくり社会教育課長

（教育委員会） 岡田教育長、草刈教育部長、山口学校教育課長、
鳥居学校教育課学力向上推進室長、山本文化スポーツ課長

【事務局】 松井書記

【議題】

1 執行部報告事項

- (1) 令和5年7月8日から9日の大雨対応について 【防災安全課】
- (2) 浜田市行財政改革実施計画令和4年度実績及び令和5年度計画について 【行財政改革推進課】
- (3) 附属機関等の見直し（案）について 【行財政改革推進課】
- (4) 令和4年度健全化判断比率・資金不足比率（速報値）について 【財政課】
- (5) 浜田市まちなか交流プラザの運用開始について 【定住関係人口推進課】
- (6) 石見交通路線バス有福線の路線廃止に伴う再要望及び今後の対応について 【地域活動支援課】
- (7) JR西浜田駅舎の更新、ホーム待合所の撤去等について 【地域活動支援課】
- (8) 地域おこし協力隊員の委嘱について（郷土資料整理業務事業） 【教育総務課】
- (9) 令和5年度全国学力・学習状況調査結果（概要）について 【学校教育課学力向上推進室】
- (10) 浜田市文化財の指定について 【文化スポーツ課】
- (11) 浜田郷土資料館建替え整備について 【文化スポーツ課】

(12) その他

(配布物)

- ・ 中央図書館・三隅図書館開館10周年記念事業について 【教育総務課】
- ・ 令和5年度運動会及び学習発表会等日程 【教育総務課・学校教育課】

2 その他

- (1) 議会広報広聴委員会からのお知らせ
- 3 行政視察レポートの作成について（委員間で協議）
- 4 【取組課題】不登校児童生徒への支援について（委員間で協議）

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[9 時 59 分 開議]

○永見委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達している。レジュメに沿って進める。

1 執行部報告事項

(1) 令和5年7月8日から9日の大雨対応について

○永見委員長

執行部から補足説明があるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

○大谷委員

対応した結果、特段支障はなかったという理解で良いか。

○危機管理監

資料にもあるように軽微な被害状況はあったが、人的被害もなく対応に問題なかったと考えている。

○永見委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(2) 浜田市行財政改革実施計画令和4年度実績及び令和5年度計画について

○永見委員長

執行部から補足説明があるか。

○行財政改革推進課長

浜田市行財政改革実施計画令和4年度計画については、昨年8月に報告している。前年度である令和4年度のこれからの計画の進捗状況に令和5年度計画を加え、資料にまとめたものである。これらの資料は全部署に関わるので、今月17日に開催予定である全員協議会に資料を提出したいと考えている。

○永見委員長

委員から質疑はあるか。

○佐々木委員

新規の内容が何点か明記されていて、その辺で伺いたいが、18ページの「郵便料金計器の導入」について、事務の効率化とのことだが、他の自治体では既に導入されているのか、それともこれから他の自治体も検討しながら進めていき、浜田市も並行してやっていくのか。

○行財政改革推進課長

他市の状況は私のほうでは把握していないが、このたびの計画項目は、あくまでも事務効率化を踏まえて、これから管理していくということで追加したものである。

○佐々木委員

こういったことを導入していくようにといった何かしらの指針が、県なり国からの方向性が示されているのか。

○行財政改革推進課長

国等の指針でこのようにせよといったものはないが、あくまでも行革の観点から各課で取りまとめを行い、このような内容で進めていきたいということで、令和5年度計画の中で新たに追加したものである。

○佐々木委員

それと、26ページの「災害公営住宅の譲渡」とは、具体的にどこの住宅なのか。

○行財政改革推進課長

場所については今資料を持っていないため、後ほどお知らせする。

○永見委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(3) 附属機関等の見直し(案)について

○永見委員長

執行部から補足説明があるか。

○行財政改革推進課長

附属機関の見直しについて、令和4年7月に開催した行財政改革推進委員会において、委員から各種審議会等へ委員参画している地域の負担軽減を図ってほしいという意見をいただいた。また、同じ趣旨の要望も提出されたことを受け、現況調査を行い、行財政改革推進委員会へ進捗報告を行いながら、今年1月に浜田市附属機関等の設置及び構成員の選任等に関する指針の改定を行い、全庁的に各種会議体の庁内方針を検討してきた。このたび庁内方針の見直し案を決定したので、報告するものである。

集約結果だが、庁内方針を踏まえての状況については表にまとめたとおりである。

(以下、資料を基に説明)

○永見委員長

委員から質疑はあるか。

○大谷委員

主な見直しについて、浜田市美術品等収集委員会の廃止が提案されているが、そもそもこの委員会がどのような役割を果たしていたかの確認をお願いしたい。そして、廃止後の対応として問題がないか確認したい。

○教育部長

資料2の5ページに記載があるが、美術品等収集委員会については、浜田市世界こども美術館を開設する際に設置し、そこでの美術品等の収集に関することを審査するも

のであり、美術館が開館してかなりたっており、所期の目的は達成していることと、合併時に美術品等取得基金も廃止しており、なおかつ当面高額な資料等の購入を予定していないため、この委員会を廃止しても当面問題がないと考えている。

○大谷委員

当面は問題ないことは理解できたが、今後もしも高額なものを収集する場面が出たときには、新たにつくる可能性があるということで良いか。

○教育部長

そのような事態が生じたときには何らかの措置を取り、美術品の価値等について検討する必要があると考えている。

○芦谷委員

2ページに記載のとおり、5年に2回しか会議がない浜田市保健医療福祉協議会障がい者福祉専門部会、こういうものは見直しで良いが、1年に1回とか2年に1回とか、たまにしかできないような委員会は、必要性そのものも問題があると思うが、そういった視点で検討されたのかが1点。

もう1点は、3ページの環境清掃対策審議会と環境審議会、これらは相当回数があるが、同じような範疇なので、むしろそれらは統合したほうが市民の声も把握しやすいし、執行部も仕事しやすいと思うが、全体的な開催回数や類似の審議会等の見直しについては踏み込んだ検討をしたのか。

○行財政改革推進課長

このたびの指針を見直すに当たり、設置の基準または委員の多選、5年以上委員会に在職しているか、例えば10年以上の長期就任しているかといったこと、また、女性参画の向上といったことも併せて指針の改正の内容としている。

また、今回の会議体の統廃合については、廃止する場合の基準といったことも内容として検討した。その指針に基づいて各担当部署で各会議体の意図や趣旨を検討してもらい、今回の見直し案となっている。

○芦谷委員

状況は大体分かった。これを所管する行革の推進課として、各部課に検討を依頼する際に、例えば類似の審議会等の統廃合とか、あるいは年に1回しか会議がないようなものを見直しの視点などは、基準を示して検討してもらったのか。

○行財政改革推進課長

このたび改正したこの指針の中で、例えば統廃合する場合、廃止する場合、委員の就任に当たってお願いするものといった基準をそれぞれ示している。それに基づいてこのたびの見直しを検討してもらったと考えている。

○佐々木委員

それぞれの団体の意向を踏まえたという説明だったが、一番気になるのは三隅地域自治会連絡協議会で、これは年に4、5回と頻繁に開催されているが今回統廃合ということなので、割と機能しているような気もするが、団体の意向なので理由は分からないかもしれないが、今回統廃合に至った理由が分かればお願いします。

○行財政改革推進課長

それぞれの会議体の中でどのような話になっていたかは把握していないが、この団体は組織のあり方について協議、検討を進めていくとしている。これについては他の会議体、協議体と横並びにしてみても、どのようにしたほうが良いかをそれぞれの団体の中で協議していただく内容だと思っている。

○佐々木委員

次のページに交通安全関係の団体の統廃合が示されており、交通安全協会、例えば三隅支部は今回統廃合だが、旭は委員の見直し、弥栄と金城は特に統廃合にはなっていない。同じ交通安全協会だがバランス的にどうなのか。

○防災安全課長

協会の統廃合などの考え方については、合併前からの経過もあるので各団体で考えていただき、このようになったと考えている。

○永見委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(4) 令和4年度健全化判断比率・資金不足比率（速報値）について

○永見委員長

執行部から補足説明があるか。

○財政課長

実質公債費比率に関して、中期財政計画における推計値との比較について説明する。決算数値は10.8%となったが、昨年度策定の中期財政計画においては令和4年度の数値を10.9%と見込んでおり、推計より0.1ポイント下回る結果となった。推計を下回った要因としては、令和4年度においても国の補正予算による普通交付税の追加交付があり、分母への計上額が約1億9千万円増加し、これが中期財政計画の上振れとなったことが改善に至った理由として挙げられる。

○永見委員長

委員から質疑はあるか。

○三浦副委員長

この速報値に対する担当部局の見解を説明してほしい。

○財政課長

中期財政計画の説明でも申し上げたが、計画数値としては大体想定どおりだと考えている。実質公債費比率あるいは将来負担比率についても、地方債残高や借金の返済の部分が大きな要因となっており、そこは過去の事業実施の現れであることから、推計していく中でコントロールできている範疇だと考えている。

○永見委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(5) 浜田市まちなか交流プラザの運用開始について

○永見委員長

執行部から補足説明があるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

○大谷委員

運用を開始した点は今後に期待するが、現時点で改善しておきたい点があるか。あれば伺いたい。

○定住関係人口推進課長

日曜日にオープンし、高校生が勉強していたり、大学生が打合せをしていたりする状況が見受けられる。まだオープンから3日で、改善点は検証中のため、課題を見つけ次第対応していきたい。

○大谷委員

オープン時は他の予定があって行けなかったのだが、オープン前に見せてもらった。車で近くまで行くと「公用車駐車場」と大きく目立つ看板が駅側に3台分あったが、来客はどこに駐車したら良いか分からなかった。学生なら徒歩や自転車で行くこともあるが、大人であれば車を利用すると思うので、運転している外来者から見ても分かるような案内看板が必要ではないかと感じたので指摘しておく。

○定住関係人口推進課長

ご意見、ご指摘感謝する。交流プラザの家主である商工会議所とも協議を行い、改善を図っていきたい。少し時間をいただきたい。

○三浦副委員長

オープン時には大学生もたくさん来て非常に良い雰囲気だったと思う。オープンして早速この時期は夏休みに当たるが、運営を委託しているファンタスと、市の職員の管理体制や、夏休みの影響で大学生がうまく集まるかどうか、この間会場に行ってふと不安がよぎったのだが、運営体制は問題なくスタートしているのか。

○定住関係人口推進課長

現在、ファンタスには平日の夕方と土日祝日の運営をお願いしている。平日の日中は浜田市の職員が施設長と事務員とで2名、商工会議所からも週に1回の支援をいただいて運営している。スケジュールについてファンタスとも情報共有しながら調整しているが、現在のところは大学生のアルバイトも確保できているので大丈夫と聞いている。また、管理マニュアルも整備し、オープン前にはアルバイトの学生を対象に説明会も行っているので大丈夫とは思っているが、そうは言っても何があるか分からないので、きちんと目配りしていきたい。

○三浦副委員長

それと、当日行ったらロゴマークができていて、初めて見たのだが、あれはどういう意味合いなのか、どういう思いが込められているのか。

必ずしも全て議会に報告してほしいというものではないが、ここの設置についてはコンセプトから体制から、すごくいろいろな議論があった。我々委員会としても報告を求めてきたし、執行部からも適宜必要に応じて報告していくということで進められてきたと思う。しかし、少し釘を刺すようで恐縮だが、イベントの連絡が来たのも直前だった。行って初めて目にするものが非常に多くて、当日行って受ける情報量が非常に多かった。当日盛り上がっていたことは良かったが、これまで情報公開をしっかりとやるということで進めてきたにも関わらず、このスタートは丁寧ではないと思う。一緒にしっかりとやろうとおっしゃるなら、もう少し丁寧な説明がその都度あったとしても良かったし、イベントの実施について中身は決まっても、日程の確定といったことは事前の委員会で報告する機会があったのではないかと。そうすれば、我々としてもしっかりとそれに対して心構えもできるし、一緒に応援して良い所をつくっていくとやってきているわけなので、告知などの協力もできると思う。そういった点を報告してほしいということを伝えておきたいと思うし、ロゴも一つのシンボルとしてあそこに掲げられているわけなので、それがどういう経緯で、その制作がどのように行われたのかといったことの報告があっても良かったのではないかと。改めて伺いたい。

○定住関係人口推進課長

オープニングの案内が遅くなり間近になったこと、それから内容がきちんと決まっていない段階において、議員には日程だけでも先に連絡をしなければいけなかったこと、本当に怠っていたと反省している。大変申し訳なかった。

これからはイベントの情報等、高校や大学と実施するものについて、早目に事務局から、例えばメールで送ってもらうような形で情報提供をしていきたいと思う。

ロゴマークについては、今回ホームページの作成をお願いしており、その際にホームページの作成会社がつくってくれたものである。マークの意味は、右上の赤い丸は地域の若者を意味し、左下のブルーの丸は浜田の海を象徴する地域ということで、若者と地域が交流し合って明るい未来をつくっていくことをイメージしてホームページの会社がつくられたと聞いている。明るく分かりやすいロゴマークなので、そのまま交流プラザのロゴマークとして採用した。

○三浦副委員長

ロゴの制作費用は、ホームページ費用の中に当初から見込まれていたのか。

○定住関係人口推進課長

ホームページを運営するときの見積の中にロゴマークは入ってなかったが、今回ホームページの制作会社がホームページをつくるに当たり、ロゴマークがあったほうが訴求力が高いだろうということでつくってくださった。

○三浦副委員長

通常ロゴ制作というのは非常にコストも時間も掛かる。こうした場所をつくる時にはそうした費用もあらかじめ想定して、今回はホームページを制作するという業務の中で事業者が善意でつくってくださったものと理解するが、本来はこういったもの

はきちんと労力を掛けてつくってもらうものなので、事前に予算に計上しておく必要があると思うし、つくるならそうした意識を持ってクリエイティブの部分を予算要求しておくことが必要だと思う。善意でつくってもらって、素晴らしいものなのでそれはそれで良いが、そうしたところに民間事業者に対する負担が生じていることはしっかり認識していただき、これは今回の件に関わらず、ほかの部局でもそうだが、いろいろな事業を見ながら、そうした部分への意識があまりないと感じているので、制作物等に関する価値を執行部にはしっかり感じていただき、予算に計上していただくようあらかじめお願いしたい。

○西田委員

当初は7月にオープンするという情報だけ聞いており、7月10日を過ぎた頃に、議員同士で、まちなか交流プラザは7月オープンだったがまだしていないという話が出て心配していた。そういう中で、急きょ7月30日にオープンということで、オープンしたのは良いが、この日のオープンは最初から想定内だったのか、それともオープンに当たっていろいろな問題点やハードルがあったりして、オープンできなかった理由があるのならば聞かせてほしい。

○定住関係人口推進課長

オープニングに際して来賓の方の日程調整等を行った結果、7月30日に決めた。トラブルがあったのでオープンの予定を延期したということはない。議員への案内が遅くなったことは申し訳ない。

○西田委員

オープニングを主導したのは担当課か、それともファンタスを含む若い人たちか。

○定住関係人口推進課長

オープニングの全体を取りまとめたのは私ども担当課だが、第2部の高校生によるプロジェクト発表は浜田高校生と魅力化コーディネーターの先生にお願いした。第3部の大学生による調査発表、ゼミの活動募集や当日の運営準備その他はファンタスにお願いした。

○永見委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(6) 石見交通路線バス有福線の路線廃止に伴う再要望及び今後の対応について

○永見委員長

執行部から補足説明があるか。

○地域活動支援課長

今回の報告事項については、既に地元自治会長には情報提供しており、今後地元から市に対して、市が行う代替交通に関する要望書が提出されると聞いている。今後こういった要望や、地元説明会を開催するので、そういった意見を踏まえて令和6年4月からの代替交通の検討を進めていく。

○永見委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(7) JR西浜田駅舎の更新、ホーム待合所の撤去等について

○永見委員長

執行部から補足説明があるか。

○地域活動支援課長

今回報告する内容は、JR西日本が以前から進めている駅設備のシンプル化構想により行われるものである。西浜田駅の利用者の不安や不便が解消できるようJR西日本に必要な要望を行っていくとともに、市でできる対応を今後検討していきたい。

○永見委員長

委員から質疑はあるか。

○大谷委員

新設される部分の費用はどこが出すのか。

○地域活動支援課長

新設される駅舎の整備はJR西日本が実施する。

○大谷委員

資料によると現状は黄色枠で示されていて、新設は赤枠で示されているが、それを見ると約2分の1程度に縮小されるように見受けられる。現時点の駅舎も多くの人が入れる状況ではない。座席は10人程度だし、詰めても20人入ればいっぱいになるレベルだと思う。心配するのは大雨や列車の遅延など、災害に絡んで列車が来ないときにどうしてもそこで列車を待つ状況があらうと思う。最悪時に利用者の安全が確保できるような施設にすべきと思うが、駅舎のスペースそのものにおいても問題があるのではないかと思うが、この点はどうか。

○地域活動支援課長

JR西日本の考えについては、将来の維持管理コストの削減を図るためということで、新設する駅舎については小規模化を考えていると聞いている。待合としてはホームの上屋や待合所もなくなるので、JRの考えとしては小規模化された駅舎と跨線橋などを使って列車を待つのに対応してほしいという意見を聞いているが、市としては近くに長浜まちづくりセンターがあるので、そちらが活用できないか考えていきたいのと、最悪の事態となると、長浜まちづくりセンターを通常の対応ではなく、職員が出向いて何らかの対応をすることも必要になってくると思っている。

○大谷委員

職員が出向いて対応となれば時間的なずれも生じる。やはり常に利用する者がその場において対応できるような施設にしておかないと問題だと思う。とりわけ西浜田駅は浜田商業高校の生徒も多く利用している。

あと、問題はトイレが撤去されることで、これについてもJRの利用者だけでなく、

観光や外来の方からすればトイレが分かりやすいところにあることは非常に大事なので、まちづくりセンターの活用を検討することだが、確実な利用ができるような方向で対応してもらいたい。この点はどうか。

○地域活動支援課長

おっしゃるように迅速な対応が必要だということは十分承知しているので、そういったところについては長浜まちづくりセンター職員と連携して対応していきたいと思っている。先ほどの答弁は最悪の事態への対応ということでの答えである。

トイレについては、ご指摘のとおり、ここは浜田商業高校の最寄り駅となっているので、高校生や観光でいらっしゃる方、こちらを日常的に使われている方に不便がないように、まだ検討中なので何とも言いがたいところではあるが、長浜まちづくりセンターを支障がないように使えるよう検討していきたい。

○大谷委員

まちづくりセンターは通常は平日の対応である。夜間や土日の対応は利用者がいない限り難しい状況だと思うので、24時間とまでは言わないにしても、列車が利用できる時間帯は確実にまちづくりセンターのトイレが使えるよう検討してもらいたい。

○地域活動支援課長

ご指摘のように、特に高校生が朝6時、7時台、また夕方はまちづくりセンターが閉館してから夜8時くらいまでは列車の利用があるのではないかと考えている。そこで支障がなくトイレが使えるように、例えば長浜まちづくりセンターの入口は正面の自動ドアと左側に職員通用口があるが、この職員通用口から入ったとして、そこからトイレまでの通路を防犯上の対策としてアコーディオンカーテンやパーティションのようなもので区切って通路をつくり、そこが使えるようにと考えている。

○佐々木委員

J R 西日本のシンプル化構想の下に行われるということだが、シンプルイコール不自由、不便さがどんどん出てくるようなことだと思う。特にそういった手法はある程度地元の自治体や地域のサービスに、J R ができないところを委ねるといったことも、口には出されないがある程度加味されながらの対応だと思うが、どう考えるか。

○地域活動支援課長

J R 西日本については、シンプル化構想の中で、ほとんどの部分を決めて浜田市に情報提供されるというところがあるが、市としては必要な部分はJ R に対応していきたいと考えているので、その中で必要な要望は行っていきたいと考えている。

○佐々木委員

J R 西日本に声を伝えて反映されるなら、先ほどから出ているトイレの対応や、あるいは学生が利用する拠点の駅ということで、雨の日の対応など、最低限そこは配慮すべきことだと思うので、その辺はぜひ強く伝えてもらいたいと思う。

○地域活動支援課長

委員がおっしゃったようなことは私どもでも想定し、話をしている。なかなかJ R の対応が変わるとするのは難しいところだが、検討はしていただけると聞いている部

分もあるので、要望書を提出してしっかり市の見解を示していきたい。

○地域政策部長

J Rの考えということだったが、トイレの撤去などは自治体に押し付けるという考えではなく、J Rとしては列車の中にトイレがあるので駅舎にトイレは基本的には必要ないということで、特に無人駅についてはどんどん撤去を進めておられる。その一環でそうした整備がされるので、我々地元の自治体としては、間近にあるまちづくりセンターを活用していただくことを検討していきたいと考えている。J Rが撤去するので、あとは自治体で考えてほしいというような依頼があったりとか、そういった流れでないことは了解いただきたい。あくまでJ Rの基準で施設整備をする、その結果なくなるものがあるので、市としてはできるだけ利用者のためにそこを補いたいということで、まちづくりセンターの利用を検討している。

○佐々木委員

要するに、あとは市に委ねるということなのだろう。J Rから言葉はないものの、不自由、不都合なことがあれば市でやってくれ、委ねるということだと思う。

○地域政策部長

どう受け止めるかというところもあるが、J Rとしては無人駅に外のトイレは必要ないということで撤去を進められている。その後のことを直接委ねられたということではない。ただ、結果としては、委員がおっしゃるように、その後の市民の利用なども考えれば、自治体が何か考えざるを得ない形にはなっていると思う。

○肥後委員

全国的にそうだと思うが、駅前に駐車場があってジュースの自販機があってトイレがあるので、車が運転できない方や、列車に乗らなくても待ち合わせでここを使う方をたくさん見てきた。そういった観点からも再度お願いだが、長浜まちづくりセンターのトイレを利用してもらう考えだと言われたが、土日祝日や早朝、夜間まで開けるというのはなかなか難しいし、トイレを外に新設するには予算も掛かるのでそこまでできないだろうと思うが、できる範囲の、日中の時間だけでも気軽に利用できるように案内を、誘導看板や標識を立てるなど、駅舎の中にトイレの案内をすれば、今使っている方々にとっても非常に便利だと思うので、その辺も願います。

○地域政策部長

おっしゃるように、現在あるトイレは障がい者に対応できていない。逆にまちづくりセンターの活用ができれば、こちらは多目的トイレもあるので、利用者にとってはサービス向上になると思う。できるだけ利用に応えられるようには検討したい。

○芦谷委員

聞いていて、利用者と向き合う姿勢が感じられない。私は一般質問で下府駅から岡見駅までの駐輪場について取り上げた際、実態を把握してJ Rへ要望するといった答弁があり、その後のことを聞きたいがそれは置いておいて、今までのやり取りを聞いていて、いやしくも待合所があればトイレは必要である。まちづくりセンターまでは距離があり、土日夜間の問題もある。したがって、もう少し利用者本位で考えること

だと思う。浜田商業高校生も含め、利用者の声は聞いているか。

○地域活動支援課長

利用が多い浜田商業高校や浜田高校、地元の自治協議会長、駅が所在する町内会長にはこういったことの情報提供をしており、まだ工事期間などの具体的な部分がかきりしてないため具体的な要望はなかったが、決まった時点で周知をしっかりとしてほしいという声はいただいた。

○芦谷委員

J Rのシンプル化構想なのでそれはそれとして良いが、自治体によってはJ Rと協働して、場合によっては自治体が肩代わりする例もある。その辺はしっかりと利用者の声も聞いて、待合所があってトイレがないというのはどう考えても異常である。その辺をもう少し詰めて、市の構えをJ Rに示しながら、もう少し前向きな検討を要請してほしい。

○三浦副委員長

今、まちづくりセンターを列車の待ち時間に利用している方はいるか。

○地域活動支援課長

現在は駅舎があるので、主にはそちらを利用されている。暑い時期だと、長浜まちづくりセンターを近所の方が暑さしのぎで利用されることはあるのではないかと考えている。

○三浦副委員長

駅に隣接しているところなので、基本的にはそもそも開かれた場所だから、列車を利用する方やあらゆる人が使っても良いものだし、列車の待合のために使われるならある意味複合化という部分があって、それはもちろん良いと思う。むしろこの立地を生かしてそのようにすれば、列車の利用者がここに来ていろいろな情報を見たりといったこともできるし、良いと思う。

その使い方は良いが、浜田市内にあるJ Rの駅のトイレの設置状況は、今どうなっているか。

○地域活動支援課長

J Rが所有しているトイレが三保三隅駅と西浜田駅となっている。下府駅、周布駅、岡見駅についてはJ Rから譲渡を受けて市の財産となっている。それ以外にはトイレがない。

○三浦副委員長

J Rから譲渡を受けて三つの駅のトイレは市が管理している。今回はJ Rが西浜田駅のトイレを撤去し、新設せずにまちづくりセンターのトイレを使うのが費用面などを考えて良いだろうという、これまでの方針に沿ったものであるという理解で良いか。

○地域活動支援課長

おっしゃるとおりである。あと、西浜田駅のトイレはくみ取り式で利用者が敬遠されるようなところもあり、トイレ設置から50年以上たっているの、市が譲渡を受けたとしても撤去となったときに、市の建築部門と建物の確認をしたときに、アスベス

トの問題等もあるのではないかということもあったので、こちらはJ Rに撤去を任せ、市では近くにあるまちづくりセンターの活用を促すほうがベストではないかということに至った。

○三浦副委員長

J Rは列車にトイレが付いているから駅舎のトイレは不必要なので撤去していくという経営方針だが、浜田市は駅に公衆トイレが必要だという見解を持っているのか。つまり、J Rの路線利用者がいる限り、J Rから譲渡を受けた三つのトイレも今後施設更新をしていく可能性があるのか。トイレを各駅に市が設置していくという方針を持っているということの良いか。

○地域政策部長

どのトイレも古い。今後の更新については、譲渡を受けて以降、実際どのくらい利用されているのか、必要性も加味して検討することになると思う。必ず駅にトイレが必要だという方針を市として持っているわけではない。今回、もともとあったトイレがなくなるということで、利用者だけでなく近隣住民の利用もあるということで、まちづくりセンターがその機能を補完できるということで今検討している。

○三浦副委員長

一つ気になったのだが、まちづくりセンターのトイレを何らかの改装等をもって利用できるようにしたときに、先ほどアコーディオンカーテンと言われたが、防犯上の観点や様々なことを考慮して、アコーディオンカーテンで問題ないという見解なのか。

○地域政策部長

先ほどは一例として課長が答弁したと思うが、実際にどういう整備ができるか、現地の建物を見ながら今まさに検討しているところである。金城などの自主避難所も、まちづくりセンターの鍵を開けて職員は配置せず、自由に避難するという体制を取るときには、事務局の部屋には鍵を掛けて入れないようにしている。そこが防犯上の対策にもなると思うので、そういったことがきちんとできるかどうか、今まさに検討しているところである。アコーディオンカーテンは仕切りの案の一つとして申し上げたまでで、実際に安全が確保できるかどうかはこれから検討していきたい。

○三浦副委員長

緊急時と常時では考え方が違うと思う。事務局にきちんと鍵が掛ければ屋内に入って良いのかという基準で考えて、24時間トイレを利用できるようにするというのはどうなのか、まだ不安は残る。そこはもちろん議論していくとは思いますが、利用想定を様々に広げていったときに、今までは老朽化しているトイレが使いにくかったということなので、どれだけの人が使っているのかも正直分からないが、場合によっては既にまちづくりセンターを使っている方もいるのではないか。これは憶測なので何とも言えないが、そうしたところで、列車が走らない時間に西浜田駅のトイレをどれくらいの方が利用しているか、それを常時職員がいない時間に拡大してトイレを開けておく必要があるのか、様々に議論する必要があると思う。前提としてJ Rに担ってもらう部分、サービスを提供している部分の範疇で、これをやってもらいたいがやってく

れないから市がつくるのだと言っていると、どんどん市がやらなければいけないことが増えていく。JRはシンプル化という経営方針を示されるが、そうではない実態があったときに市がそれを全てカバーしていくのかということ、切りがなくなっていくと思う。サービス提供者にはここまではしっかりやってもらいたいというスタンスを持って交渉していかないと、市としても対応できない部分や、やり過ぎな部分がある場合には出てくる可能性もある。行政としてのスタンスと、ほかのエリアのトイレのこと、日中乗り降りされる人の数などを十分配慮して、全体を考えながらJRと交渉していかないと、今後のこともあると思うので、スタンスを一度整理して進めてもらいたい。冒頭に申し上げた、まちづくりセンターが隣接しているこの土地でできることは、できるだけ機能を複合化したほうが良いと思うので、そこは積極的に、前向きに考えてもらいたい。相反することを言っているかもしれないが、整理しながら進めてほしい。

仮にまちづくりセンターを利用するとなれば、利用量がいろいろな意味で増える、ということは維持管理の負担がハード面でもソフト面でも掛かると思う。そうしたところは現在センターを管理されている職員と十分協議して、常時と非常時は違うので、そういった観点を持ってしっかり整理して協議を進めてほしい。

○地域政策部長

今現在のトイレ利用はやはり少ない。くみ取り回数も2か月に1回だったか。逆にいろいろなものが投げ入れられたり、外のトイレだとどうしても不誠実な利用があったりして、まちづくりセンターのほうが環境的にも良くなると思うので、いろいろな情報発信など複合的に効果が出るように我々も考えていきたい。

24時間の利用ができるかどうかは、まだ分からない。どうしても安全確保ができないとなれば無理にやることではないと思っている。夜間や早朝のトイレ利用がどれだけあるかはなかなか把握しにくいですが、まずは今ある機能ができるだけ確保できるように、それからまちづくりセンターで提供できるサービスであれば提供できるように検討したい。

○西田委員

JRとすれば現状の駅からどんどんシンプルにするのは当たり前のことで、そういった中で自治体や地域住民がJRのシンプル化をどこまで受け入れるかだと思う。私が知っている限りでは、例えばJR岡見駅は地域住民の駅への思いあり、市が譲り受けて地域住民がきれいに使えるトイレにしているし、駅舎は地域住民が集えるようなサロンやギャラリーにして、駅舎そのものを地域住民が活用している。折居駅も地域住民が色を塗って楽しい駅舎にしている。いろいろな活用も、JRと地域住民との関わり、それを自治体がどう支援するかということも、考え方、思いなのである。西浜田駅に対して地域住民の思いが何もなく、まちづくりセンターで全部用は足せるならそれはそれで良いと思う。地域住民がどう思っているかは分からないが、それは自然なことだと私は思う。

○地域活動支援課長

ご指摘ごもっともだと思います。今まで市が駅舎の譲渡を受けた下府駅や周布駅があるが、それらは駅舎のほかに事務室などの部屋があり、そこを地域の住民が集会所などで活用されており、併せて地元の方が管理されている。西浜田駅はそういった部屋がなく、純粹な待合であることと、築年数が約100年ということもあるので、近くに長浜まちづくりセンターがあるので、そちらを生かしていければということから今回このようになっている。

○永見委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

ここで暫時休憩とする。

[11時 10分 休憩]

[11時 19分 再開]

○永見委員長

委員会を再開する。先ほどの(2)の行財政改革実施計画について、行財政改革推進課長から発言の申し出があったので許可する。

○行財政改革推進課長

災害公営住宅の譲渡の関係で、佐々木委員から災害住宅の場所の質問があった。実績で3戸と記載しているが、これらはいずれも三隅の住宅である。

(8) 地域おこし協力隊員の委嘱について(郷土資料整理業務事業)

○永見委員長

執行部から補足説明があるか。

○教育部長

郷土資料の整理業務事業に関する地域おこし協力隊の委嘱について、6月26日の総務文教委員会で、1名の予定を1名増やして2名にするという事業内容の変更を報告したが、この2名のうち1名を8月から委嘱することになった。

○永見委員長

委員から質疑はあるか。

○大谷委員

未整理の古文書等の目録作成などをやっていただけるとのことなので、古文書が読める方だろうと思うが、差し支えない範囲でどういう経歴でどのような能力のある方か言ってもらえると理解が進むのでよろしく願います。

○教育部長

愛知県出身で、島根県立大学浜田キャンパスに通っておられ、浜田に住んだ経験がある方である。学芸員の資格も持っておられるが、実務経験はないので、その辺はこれから勉強しながらやっていきたいとのことである。年齢は24歳で、歴史に大変興味

がある方である。

○芦谷委員

昨年度、専門職の方が2名離職された。この方を雇用して古文書の整理をしながら、次の目標、市史編さんの計画はどうなのか。この辺も表明できないか。

○文化スポーツ課長

市史編さんについては、今年度と来年度で方針を考えていくこととしている。

○芦谷委員

今のは確か施政方針にもあったと思う。こうして人に入っていて浜田の歴史文化の資料の整理なり、その次の歴史資料館なり市史編さんのことに進むと思うが、もう少し、今おられる方々にしっかり活躍していただき、事が前へ進むように、今回入った方は最大で令和8年度までで、もう少し人をうまく使ってという語弊があるが、歴史文化行政が前へ進むように、そんなことをこの地域おこし協力隊の方に入ってもらったことを起点にして進める考えはないか。

○教育部長

この地域おこし協力隊の方は、まずは中央図書館を中心に、未整理の行政文書や古文書の目録を作成していこうとしている。もう1名、9月に委嘱できればと準備をしている方との2名でやろうと思うが、スキルがどの程度上がっていくかということもあるが、そういうところで図書館だけでなくほかの資料についても可能であれば手を広げていくことも視野に入れながら事業を進めていきたい。市史については先ほど課長から説明があったように、方向性を出して、それに対して人員が必要であればそういう形での体制も整えた中でやっていくことになると考えている。

○西田委員

私がもしこの方の立場で浜田市に委嘱されて仕事することになれば、まだ若い方だし、古文書を読むスキルもそこまではないとのことなので、中央図書館を中心に未整理のものを整理するだけではなかなか仕事がしづらい気がするが、その辺は誰か地元におられる専門の方が協力するのか。ただその方に任せるだけなのか、それともある程度の道筋までは仕事の流れを教えてもらえるのか。

○教育部長

まず、高いスキルを要しない仕事で経験を積みながら、市史の読解など古文書を読むスキルを上げる努力もしていただきながら、もう一人を含めて事業に当たっていきたいと考えている。当然、全くこの人に任せるのではなく、今いる人の協力も得ながらやっていくことが肝要だと考えている。

○永見委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(9) 令和5年度全国学力・学習状況調査結果（概要）について

○永見委員長

執行部から補足説明があるか。

○学力向上推進室長

2点補足する。1点目、2ページの3、浜田市の結果の(1)各教科の分類集計結果の概要で、①、②の後が④になっているが間違いで、③、④と続く。②の小学校算数は、左から2番目の欄に対象設問数が16と示されている。その下に6とか4とか、領域別の数字が出ているが、領域別の数字を足しても16にならない。これは一つの問題で二つの領域を見ている問題があったため、誤りではない。同様に、中学校国語についても数値が合わないが、これも一つの問題で二つを見ていたため間違いではない。

2点目、3ページに中学校英語で表がある。その下に、「話すこと」については、という文章が書いてあるが、これについて補足する。英語の話すことについては、今年度は、生徒のタブレット端末を活用して調査が行われた。この調査は二つのタイプがあり、一つは調査日当日に実施する当日実施校、もう一つは調査日以外の日に文部科学省が示した期日に実施する期間内実施校である。当日実施校については文部科学省が指定した500校を対象にして行われている。報道等で発表されている話すことについての数値は、この500校の対象校の数値を基にして、全国に換算するとこのくらいの数値になるだろうという数値を発表したものである。浜田市の中学校は全て期間内実施校だったので、数値は8月下旬に参考値として文部科学省が示すことになっている。したがって、今回の報告では話すことについては省略している。

○永見委員長

委員から質疑はあるか。

○大谷委員

この結果を受けて各学校ではどのような改善をすべきか検討しているのではないかとと思うが、各学校の取組状況を聞かせてほしい。

○学力向上推進室長

我々は学校より1週間程度早く結果を知ることができている。小学校については今週の始め、中学校については今日、文部科学省から学校へ情報提供がなされることになっている。したがって、中学校は今一生懸命資料をダウンロードしているところで、これから検討を始めると思う。我々が示しているような方向性で、経年比較もしながら、幅広い範囲で分析してもらおうようお願いしている。

○大谷委員

各学校で教員の数が少なくなっていて、同じ教科の教員が少なくなっている。そうした中で分析というのはなかなか大変だと思う。とはいえ目の前にいる児童生徒の向上に向けて、どこに問題点があって、どこを改善すれば向上するかといった具体的なものを提示していかないと改善に向かわないと思う。前にも指摘したが、松江では学校ごとにいろいろな分析をホームページに公開している。浜田においても何らかの形で自分たちの学校はこれからこのように目指すのだということを示して、改善に向けて活動していくことが大切だと思うので、考えを聞かせてほしい。

○学力向上推進室長

小学校では6年生、中学校では3年生だが、1年生のときからずっと皆で育ててきた子どもたちである。担当の教科あるいは担当の学年の教員だけでなく、皆で分担しながら分析して、皆で結果を共有している。そして全員で今後の方向性について協議して、学校としての対策を練ってもらうことをベースとしてやってもらっている。通知等はなるべくホームページに示さないようお願いしている関係で、分析結果などは各学校がホームページに出していないところがあるが、各学校で確実に授業改善の方向性もつくっているし、我々も聞き取り調査をしている。ただその結果がなかなか前に向かっていかないところもあるが、先生方は努力しているし具体的な方策も取っている。

○大谷委員

全体像を出せとまでは言わないが、自分たちはこのような課題を持っていて、このように改善を目指していくといった意思表示はオープンにしたほうが、浜田市は安心して子どもたちを任せられるまちなのだと知らしめる必要があると思う。そうしたことが定住にもつながるし、多くの方はそうしたデータを見ているので、できる限りオープンにして、頑張っていることはアピールしたほうが良いと思うので、その辺はぜひ進めてもらいたい。

○学力向上推進室長

承知した。今度の校長会等でも、具体的な数値は出せないが学校としての方向性、概略は述べてほしいということを伝えていこうと思う。

○三浦副委員長

11ページの「児童生徒質問紙結果」の上から三つ目、四つ目に、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問と、「学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上勉強をしていますか」という質問がある。中学校3年生の数字がすごく低く、県平均と比較してもかなりの開きがあると思ってとても気になった。この二つの質問は家庭学習の領域と理解しているが、これに関する数字の捉え方と、この学年がこういう傾向があるのか、それとも全体的なものなのか、少し解説してほしい。

○学力向上推進室長

家庭学習については少し懸念している。小学校は若干改善したのでこのまま行ってもらえればと思っているが、中学校に課題があると認識している。

今、小中連携教育ということにも取り組んでいるが、その中の取組の重点として四つの柱の中の一つ、生活習慣等というのがあるが、生活習慣というよりも家庭学習を軸にして生活習慣を見直すことができないか。そのためには自分で計画を立てて勉強する。そこに焦点を当てて学校で取り組んでほしいということで、今年から強化して取り組んでいる。昨年度もその方向性を持っていたが、なかなか成果が表れてこない。各中学校へ聞き取り調査に行ったところ、終礼のときに今日は家庭学習で何をするのか計画を立てて帰している、連絡帳のようなノートに、今日の何時から家庭学習を始めて何をするかを記録して、それから家に帰すような学校も増えてはきているが、なかなか成果が出てない。小中連携教育の重点として引き続き取り組んでいきたいと思

っている。

○三浦副委員長

それは取組をやっている学校としていない学校の差が、平均を取ったときにこのような低い数字になっているのか、それとも全体的に低いのか、取組をやっているが成果が出ていないのか。

○学力向上推進室長

傾向については一概に言いにくいですが、どちらかと言うと、割と成績の良い学校の例だが、家に帰っての勉強ではなく隙間時間に勉強している。だから家庭学習時間がその学校は少ないのだろうという認識を持ったりはしている。成績云々は置いておいて、将来にわたって自分で計画を立てて勉強していく取組は大切になるので、そういった力を付けてやりたいと思っているので、家庭での実践は家庭に任せざるを得ないが、そこまでの計画を立てて、さあやるぞという気構えをつくって、成果物を評価していくのは学校の仕事だと思っているので、そこは根気強く今後もやっていきたい。

○永見委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(10) 浜田市文化財の指定について

○永見委員長

執行部から補足説明があるか。

○文化スポーツ課長

石見神楽が日本遺産に認定され、神楽を支えるものづくりの文化財指定については議会でも指摘をいただいていたが、このたび石見神楽蛇胴製作技術について、浜田市の指定文化財として指定したので報告する。

なお、これ以外の神楽を支えるものづくりについては、今後検討していきたい。

○永見委員長

委員から質疑はあるか。

○西田委員

浜田市議会石見神楽推進議員連盟が発足している。浜田市においては石見神楽の蛇胴や神楽面などを生産するところがたくさんあり、浜田市独特の個性として、市の文化財指定は今後もしていこうという動きがある。その中でこうして蛇胴製作技術が文化財に指定されるのは大変良いことだと思う。

今後、まだ指定されていないものの中で指定を考えているものがあれば伺いたい。

○文化スポーツ課長

ほかにも面や衣裳など、神楽を支えるものづくりがあるのは認識している。それについて今のところ具体的に進めているものはないが、今後どのような形でできるかわからないが、引き続き考えていきたい。

○芦谷委員

植田氏の工房をよく知っているが、現在の体制は植田氏一人なのか、作業員がおられるのか。

○文化スポーツ課長

現在、工房には1名の弟子というか、後継者がいると聞いている。

○芦谷委員

もう1点、神楽面や神楽衣裳についての現状と考えを伺う。

○文化スポーツ課長

神楽面と衣裳について、現状としては工房へのヒアリング等に行っていないが、これまでの蛇胴製作を審議する過程で、文献等をひもとくようなことはしているが、まだ具体的に指定に至るところまでは進んでない。

○芦谷委員

今までを見ていると、その人が職人肌で、自分で技術を習得しながら学んでおられた。石見神楽が日本遺産になり、地場の伝統産業を市としても育成するという点でいくと、しっかりそういった方と向き合って、いろいろな要望なり希望なりを聞いて、できるものがあれば支援する。例えば原材料の調達や、作業場、作業員といったこともあると思うが、技術者側と向き合うことについての考えを伺う。

○文化スポーツ課長

今のところヒアリング等に行っていないが、今後必要に応じて、文化の保存、継承や産業面のこともあると思うが、そういったところも連携しながら考えていきたい。

○永見委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(11) 浜田郷土資料館建替え整備について

○永見委員長

執行部から補足説明があるか。

○文化スポーツ課長

この件は令和3年の市長選挙後に一旦立ち止まり、改めて市民に郷土資料館の現状を知っていただくために見学会を実施してきた。令和4年9月9日の総務文教委員会で開催状況について報告したが、その時点で若い世代の意見が少ないとの指摘もあったため、このたび若い世代や子育て世代を対象とした見学会を追加で開催した。

資料にも示しているとおり、個々のアンケート結果は2ページ以降に掲載しているが、全体のアンケート結果としては82%の方から整備が必要であるとの回答をいただいた。これらの意見を踏まえ、郷土資料館の建替え整備を推進し、今後具体的な検討に着手したい。

○永見委員長

委員から質疑はあるか。

○西田委員

今後の検討に着手する、建替え整備を推進するということだが、具体的な検討とはどういうことか。ゼロからスタートするのか。

○文化スポーツ課長

具体的なところは今後検討していかなければならないと考えているが、これまで浜田市世界こども美術館に併設する考えをもとに専門家による検討委員会を開催し、展示方法や活用方法について貴重な意見もいただいている。これまでの検討と今回の見学会でいただいた市民の意見を踏まえながら、さらに精査していきたい。

○西田委員

資料館の建替え整備は、今までもずっと議論していることであり、前回の選挙後にも市長から、市民の理解がまだ足りていないということで、こういう見学会をされたことも理解しているし、我々も見学させてもらった。どなたが行かれても、今の資料館は狭いし老朽化しているし、誰が見ても建替え整備が必要だと思うだろう。だが、この200人程度のうち81%の方々の意見をもとに推進するというのは、短絡的と言ったら失礼だが、簡単にそういう判断をするのは、それが本当に浜田市のまちづくりの考え方、市民の意見を聞いた正しい進め方なのだろうか。

この件に関してはこれまでもいろいろな議論があって、古いから建て替えようという単純なまちづくりの議論ではなく、浜田市が所有している文化施設全体のあり方や維持管理、経費などいろいろなものがあって、将来的な見通しも含めて総合的に判断した上で進めていくべきである。

今の浜田市の文化施設でも、中央図書館、石中央文化ホール、二つの美術館、それだけでも年間2億数千万円の維持費が掛かっている。そこに新たに文化施設が必要なのか。維持管理が掛かるものが必要なのか。どの程度までなら大丈夫なのか。将来の見通し、人口減少していったら、経済基盤が非常に脆弱なこの浜田市において、税収が少ない、中国電力の固定資産税はあるが、それだけで将来数十年を見通して、どの程度の建物、設備までならふさわしいのか。歴史資料の大事さは誰も分かっているが、古くなったから建て替えようというのは旧態依然の考え方であって、今は人口減少や、いろいろな社会情勢の変化の中で、新たなまちづくりとして、考え方を変えていかねばならない。歴史資料をまずはデジタルに保存して、ネットで全国どこからでも見られるようなデジタル資料館をやったらどうか。そういった意味では先ほどの地域おこし協力隊の方々が協力しながら、将来的にデジタル資料館を目指してコツコツやっていくことも大事だと思う。

現状で、大きく広く深く将来を考えて、どの程度までなら建物が必要なのか、どの程度の維持費までなら大丈夫なのか、もっともっと深く議論していく必要があるのではないかと。200人程度の81%が整備が必要と言ったのは分かるし、我々も整備が必要と思うが、それが果たしてどうなのか、もっと議論する必要がある。

○教育長

この2年掛けて、現状を知ってもらうために見学会を開催してきた。確かに件数が十分かと言うと、いろいろな組織の方に声を掛けて、まだまだ多くの方に見ていただ

きたい思いはあるが、西田委員がおっしゃるように、見た人はこのままではいけないと感じたことが、アンケートの結果などを見ると明らかに分かる。

この2年は見てもらうことに力を入れてきたが、ここからは、今のままではいけないとするなら、どのような手立てで浜田の歴史文化の資源を活用して皆にしっかり理解していただくかというところにステップアップして、そのための仕組みを考えていく必要がある。今回そのステップに入りたいという報告をさせていただいた。

どのようなものができ上がっているのかというと、そこは丁寧にやっていかなければいけないことなので、今まで議会からもいろいろな指摘をもらっているし、何よりも見て浜田の歴史の重要性をしっかり理解してもらうためにどのような仕組みが要るのかも併せて考えていく必要があり、決してハードだけでなく、ソフト面、先ほど課長からもあったが、やるとしたら展示をどのように考えていくかとか、あるいは活用をどのように考えていくかとか、その辺りも一緒に検討していかないといけない。そのステップに入ってこれから教育委員会で、皆の話や今までの意見も聞かせてもらいながら、次の展望を考えていきたい。今日はそういった報告である。

○芦谷委員

先ほどの古文書の整理とも関連するが、このことを聞いて大変良いと思っている。その前を少し話すと、あろうことか教育委員会の構えとして専門学芸員が2名も退職したという事実、スポーツ課と一緒にしたという事実。やはり歴史資料館を造るという構えがあるのなら、もっと専門の課を置いて陣容を充実して前へ進む。それが弱いと思う。よく言われるのは、ハードありきで、議会でもそういった傾向はあるが、もっと浜田の持つ歴史文化の重要性には未開の部分もあったりして、しっかり啓発する体制が弱いと思う。資料館を改築することが決まるなら、それよりもさらに前へ進めて、ソフト面をしっかりやる構えがないと、今度8月5日に副市長が郷土資料館で説明されるようだが、もう少し市の本気度も出してほしいがどうか。

○教育長

今回いろいろな手立てで見学会を仕掛けたときに、なかなかそこまで来ていただけないような状況もあった。定員を下回る人数しか来られないという現状もあった。私はこれが現状だと思っている。

一つには、今の資料館にそうした魅力がもしかしたら少し欠けているのかもしれない。それから、そもそも若い方たちに歴史に対する思いが、これは文化の薫るまちを目指す浜田市としても教育委員会としても大きな課題だと思っているが、このままで良いとは決して思っていない。そのための何らかの仕掛けが必要だと思っている。ただ、教育委員会も限られた人員の中で対応しているし、学芸員については確かにいろいろな事情で辞められた方がいるが、その分同じ人数の学芸員を新たに採用して、ここは決して弱くならないように体制は充実してやっていきたい。

そうした中で、私もソフト面はしっかり力を入れていかなければいけないと思っているので、資料館が今のままではやはりよろしくないという意見をいただいたのであれば、今後どういう形のものを目指していくかという議論でアイデアを出していかな

ければいけないと感じている。

○芦谷委員

浜田市は開府400年をやった。益田も中世益田でやり、大田も埋没林や石見銀山もあって進めているが、両市を横目で見たときに、浜田は発信力が弱いと思う。したがって、両市を見ながら、ソフト面で市民の理解を深めてもらう、いろいろな催しなどを積極的に提案しながらやっていくことが必要だと感じている。

○永見委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(12) その他

(配布物)

- ・中央図書館・三隅図書館開館10周年記念事業について
- ・令和5年度運動会及び学習発表会等日程

○永見委員長

配布物が2件ある。1点目について執行部から補足説明があるか。

○教育部長

開館10周年記念事業として、村中李衣氏の講演会を開催する。議員にも参加していただけたらと思う。

○永見委員長

2点目の資料について執行部から補足説明があるか。

(「なし」という声あり)

このほかに関係あるか。

○まちづくり社会教育課長

浜田市ひとづくり特別講演会の申込状況等について、口頭で報告したい。

8月20日日曜日の午後1時から、島根県立大学浜田キャンパス講堂で開催される、浜田市ひとづくり特別講演会、栗山英樹氏を招いての講演になるが、申込みが7月28日に締め切られ、その状況について実行委員会から連絡があった。

定員600名に対し、1,600名弱の方が申込まれている。そのうち市内の方が1,200名程度である。締切前に既に相当数の申込みがあると事務局から連絡があったので、こういった状況を栗山氏側に説明し、中継によってできるだけ多くの市民が聴講できないか相談させていただいた。その結果、テレビ中継や録画放送についてはNGとのことだったが、当日別会場で、その日限りのパブリックビューイングについては承諾が得られたため、今回抽選に漏れた市民を対象に、県大のコンベンションホールと大講義室1を会場としてパブリックビューイングを行うこととされた。

なお、今回の開催方法については、当初の予定ではなく急きょの対応になるため、パブリックビューイング対象の方に対しても、当選者同様に、事務局から聴講券を送付し、直接案内するとのことである。

○永見委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

ここで8月17日の全員協議会に提出して説明すべきものを決定したい。まず執行部の意向を確認したい。

○総務課長

本日報告した項目のうち、(1)、(2)、(3)、(5)、(6)、(7)、(11)の7件を全員協議会に提出し、説明したいと考えている。

○永見委員長

執行部の意向のとおりでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのように決定する。

2 その他

○永見委員長

執行部から何かあるか。

(「なし」という声あり)

委員から執行部に何かあるか。

(「なし」という声あり)

ではここで、執行部は退席されて構わない。

(執行部退席)

(1) 議会広報広聴委員会からのお知らせ

○永見委員長

ここで議会広報広聴委員会からお知らせをお願いする。

○肥後委員

議会広報広聴委員会から、第3回はまだ市民一日議会の周知方法の報告とお願いについてお話しする。

周知方法は資料に書いてあるとおりだが、スタジオ103での告知動画放映、これはまだ日にちがはっきり分かってないが、先日私と村木委員で、議場で動画を撮影した。3分程度の短い動画だがスタジオ103で放送される。

全議員への依頼事項として、民間施設への依頼だが、各議員にチラシ30枚とポスター3枚を用意するので、できれば設置、掲示してもらえる施設を増やしてほしい。追加が必要なら議会事務局へ申し出てほしい。設置を了解していただいた施設は議会事務局へ報告をお願いする。

また、議員は知り合いが多いと思うので、一人でも多くの方に参加をお願いしてほしい。注意事項だが、あくまで応募者多数の場合は抽選で決定することを伝えてほしい。抽選は初めての方を優先する。必ず発言できると確約できないことは申し添え

てほしい。

3 行政視察レポートの作成について（委員間で協議）

○永見委員長

三浦副委員長に案を作成してもらった。委員に確認いただき、内容を決定したい。三浦副委員長から補足説明があればお願いします。

○三浦副委員長

各委員に書いてもらった所感と、肥後委員と芦谷委員に書いてもらった視察先の概要等を参考にまとめた。

（ 以下、資料を基に説明 ）

○永見委員長

このレポートについて何か意見があればお願いします。よろしいか。

（ 「はい」という声あり ）

それではこの内容で8月17日の全員協議会で報告する。

4 【取組課題】不登校児童生徒への支援について（委員間で協議）

○永見委員長

この取組課題については調査期間を10月までとしている。調査結果の取りまとめに向けて正副委員長で今後の進め方に関する案を作成したので、委員の意見をいただきたい。

今後の進め方としては、8月中旬から下旬に各委員が記入したシートを基に意見発表、正副委員長が意見を取りまとめ、9月上旬から中旬に意見集約した結果を発表し、皆の意見を聞き正副委員長が修正。修正した結果を第2稿として発表、検討し、必要に応じて正副委員長が修正。10月中旬に修正した第3稿を発表し確定、それを提言書として執行部に提出するというスケジュールで進めたいと考えているがどうか。

意見聴取シートについては、不登校児童生徒にとって必要な場所はどのようなものか、浜田市の現状の取組は足りているか、不十分であるとすればどのような点を改善すれば良いか、という視点で意見を記入してもらい、8月中旬に提出してもらいたい。

○三浦副委員長

補足する。意見聴取シートだが、まず浜田市内の不登校児童生徒の対策として設けられている山びこ学級、先般視察したが、これに関して先般の委員会で、例えばこういった視点で具体的に評価というか、視点を持って協議を進めていったらどうかということで列挙した項目を右側に挙げており、例えば山びこ学級の立地は今が最適なのか、そうでなければどうなのか、アクセスは十分か、そうでなければどういった課題があってどうなのかといったことを、各項目をベースにしながら書いてもらい、ほかにもいろいろな視点があると思うので、それはそれで記入いただきたい。

先般の視察で伺ったフリースクールや居場所など、いろいろな形の支援方法も想定されると思うので、山びこ学級以外にも新しい支援方法が何かしら、それはハード

的な部分やソフト的な部分とか様々あると思うので、そういったものが必要と考えるならば、下段に記入してほしい。

なお、視察先だけでなく、各委員が参考にした自治体や事業体の取組があれば、そういったものを示してもらえると分かりやすく、ほかの委員の理解も進むと思うので、そのような形で一旦各委員にまとめてもらい、それを持ち寄って集約していく流れにしたい。

○永見委員長

このシートを記入して、提出を8月中旬としているが、日にちを決めさせてほしい。

○松井書記

できれば次回の委員会の開催日を決めていただき、そこから逆算する形で意見聴取シートの提出期限を決めさせてもらいたい。

○永見委員長

意見聴取シートや今後のスケジュールについて何か意見があれば伺いたい。

○大谷委員

10月いっぱいということなので、おおむねこの方向で仕方ないと思う。確認だが、フリースクールや居場所について、前の委員会の中でもどこまでがフリースクールなのかといった話があったと思うが、その辺は個人の理解のまままとめざるを得ないように思うが、それで良いか。

○三浦副委員長

その見解が、何かを明らかに定義しているわけではないというのは大谷委員のご指摘どおりだと思う。したがって、山びこ学級という既存の施設をベースにして、その機能をまず考えてはどうかということで、シートにそのような項目を設けている。仮にそれで十分でない機能があるときには、それをフリースクールというのか居場所というのか、呼び方まではここでは求めていないが、あくまでそういった機能として必要なものがあれば出してもらいたい、という見解でシートをつくっていただくと良いと思う。

○大谷委員

もう1点。地域井戸端会の席上でも話が出たが、市内にも子どもたちを集めて何か催しをしているような方がおられるが、それがフリースクールに当たるのか、居場所に当たるのか分からないが、そうした市内の現状についてはまだ我々の中では共有していないので、そのあたりも、どういったものがあるか分かれば共有しておいたほうが良いと思う。サークルなり、会があるという情報提供があると今後の意見の参考になると思ったのだが、その点はどうか。

○永見委員長

大谷委員が言われたように、そういう情報があればそのあたりも提示いただいて、皆と共有させてもらえればと思う。

○大谷委員

ということは、締切日を設定したところに各自がこんな所があるという情報を寄せ

て、その時点で共有し合う流れということで良いか。

○永見委員長

それで良い。ほかに何かあるか。

(「なし」という声あり)

では次回の総務文教委員会の開催日程を決めて、それと併せて意見シートの提出締切を決めたい。暫時休憩する。

[12時 24分 休憩]

[12時 29分 再開]

○永見委員長

委員会を再開する。

次回の委員会は8月18日の9時30分から開催したいと思う。よろしく願います。

以上で総務文教委員会を終了する。

[12時 30分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員会委員長 永見利久